

納入事例

株式会社フジテレビジョン 様 V9 スタジオ

24 時間稼働の報道スタジオに
信頼性の高い CALREC “APOLLO” を導入



V9 スタジオの CALREC “APOLLO”

■ 報道番組専用の「V9 スタジオ」

株式会社フジテレビジョン様の「V9 スタジオ」は、報道番組専用のスタジオ。音声卓のほかにも SE 卓や中継のやり取りで使用されるコーディネーション卓が整然と並び、「めざましテレビ」「スーパーニュース」など、朝・昼・夕方・夜のニュースや報道特別番組で毎日使用されています。緊急性の高いニュースに対応するため、24 時間常に電源を入れているという、機材にとってはかなり過酷な現場です。

■ 信頼性・操作性・コンパクト

V5/V1/V6 スタジオに続き、CALREC のデジタルコンソールとしては 4 台目となる“APOLLO”。技術局制作技術センター報道技術部の鹿又健一さんにお話をうかがいました。

「報道スタジオということもありデジタルは怖いなと思いましたが、CALREC のリダンダントシステムはしっかりしたコンセプトを持っているという印象を以前から持っていました。実際、DSP も含めた二重化をオプションでなく標準仕様になっています。最上位機種 of APOLLO になるとロータリーエンコーダーが 6 つに増えたことも、生放送を扱う上でメリットでした。また、2m ほどのスペースでフェーダーを 48 本絶対に確保したい、という明確な要求もありました。」

APOLLO は、クラス最高水準のリダンダントシステムを搭載しており、フェーダー幅を少し狭くしているため、1,748mm というコンパクトさで 48 フェーダーを収納。限られたスペースに余裕が生まれました。

フェーダー 48 本の内訳をお聞きました。24 本はマイク系で、各番組の出演者用ピンマイク、ブームマイク、アナプース、報道センターマイクなどとなります。残る 24 本はライン系で、送出サーバが 6 系統 12 本 (LR を分けているため)、中継が 10 本、電話が 2 本となります。他にも SE 機器や映像機器等ありますが、これらは瞬時に操作できるレイヤー B にアサインすることで対応されています。

「音質で気になるところは全くありません。もともと評判のいい卓でしたし、安心して使っています。メーターをここまで多くレイアウトできていると、見たい情報がすぐわかりますし、設計コンセプトが変わっていないので操作しやすく、AUX のアッテネーターを長押しすると、ユニティゲインに戻る機能も便利です。」と音質・操作性についても高い評価をいただきました。



マトリクスとして使用されている
BSS AUDIO “BLU-160”

●お問い合わせ先

ヒビノ株式会社 ヒビノプロオーディオセールス Div.
ヒビノインターサウンド株式会社

TEL : 03-5783-3110
TEL : 03-5783-3880

HIBINO

hibino Group



▼株式会社フジテレビジョン

〒137-8088
東京都港区台場二丁目4番8号
www.fujitv.co.jp

【運用開始】

2011年1月

【主要な納入機材】

機材	デジタルミキシングコンソール
ブランド名	CALREC
製品名	APOLLO

機材	デジタルマルチプロセッサ
ブランド名	BSS AUDIO
製品名	BLU-160